

## ブーベを終えて

7L2WVR 久保木尊史

この冬、大きなイベントといえば、何とんでも 3Y0J ブーベだろう。

何年も準備を重ね、いよいよ大冒険が行われた。

結果は、私みたいな小さなアンテナの局にとっては残念な結果になったが、彼らの勇気と努力と実行力に拍手を送りたい。

惜しまれるのは、現地で 7M などのローバンドのアンテナが張れなかったこと、ハイバンドも簡易アンテナ+100W の運用で、送受信共に弱かったこと、時期的に南アフリカ方面の伝搬が小アンテナでは厳しかったこと、運用期間が当初の計画の半分以上しか無かったことだ。

当局のロケーションからは、FT8 でも 18M、21M など数回しか 3Y0J の信号を受信することが出来なかった。受信できなければ呼ぶことが出来ない。

沢山の局がブーベを呼ぶのをただ、指をくわえて見ているだけだ。

しかし、これはブーベの日程が決まった時点で、ある程度予想していた。

近年の 1 月から 2 月の QS0 データで、当局の短縮ホイップアンテナではアフリカ方面の伝搬が良くない。アフリカ方面と交信できるのは 3 月頃からで 1 月から 2 月は厳しい。

いくらブーベのためにアンテナを新しくしたと言っても、所詮は短縮型ホイップアンテナ。ビームアンテナの局とは感度が大違いだ。

ブーベは当初、1 月末頃から 2 2 日間、SSB, CW は 1.5KW、FT8 は 100W で運用の計画があったが、現地は想像以上に厳しい環境で、機材も全ては持ち込めず、最小の設備と最低の生活環境で運用せざるを得ない状態だったようだ。

2 月 5 日以降、設営ののちに運用が始まったが、ひとつのテントで運用し、

Elecraft K3 2台をひっくり返したバケツの上に乗せて、地べたで運用。

椅子なしテーブルなし、アンプなしの 100W 運用、ホンダ製の小型発電機のみ。  
上陸してからテントが設営出来るまで、先発のクルーは3日間野外で寝たという、氷河が覆う南極圏の島で。

FT8に関しては特に条件が悪く、時刻を同期させる物が無いため時刻が14秒もズレて、それが運用途中で3Y0Jの送信ピリオドが変わる原因だった。

とにかくアンテナが簡易アンテナだったので、SSB, CW, FT8、呼ばれても聞こえないことが悔しかったとチームのリーダーは言っている。

2月14日(UTC)、ブーベはQRTした。

18000 QSO、これが多いか少ないかは意見が分かれるところだ。

ただ、想像を絶する環境、南極圏の島で地べたに座っての運用、  
テント内の暖房も限られていたそうで大変だっただろう。

今回、当局をはじめ多くの局はQSO出来なかった。

しかし、今回教えられたのは、

**「QSO出来たら Good、出来なくても OK!」**

ブーベも340あるエンティティのひとつ。

まだまだ未交信のエンティティは沢山ある。

環境的、財政的にタワーやビームアンテナを上げられないから、

今ある短縮ホイップアンテナと50W出力で、いかにDXを楽しむか。

HF伝搬の不思議と相対しながら、単にDXCCを追いかけるだけでなく、

様々な楽しみ方で、これからも「QSO出来たら Good、出来なくても OK!」の

気持ちでアマチュア無線を楽しんでいきたい。

以上。